

令和元年度第2回井口地域審議会会議録

- 1 開催日時 令和2年2月12日(水) 午前10時00分～11時55分まで
- 2 開催場所 南砺市井口行政センター 2階特別会議室
- 3 出席委員 11名 小林加津實、長田 貢、池田淑則、森 茂、脊戸川義之、荒岡信次、
架田豊昭、北澤一夫、高田友江、柳田由紀、高野芳美
- 4 欠席委員 1名 吉田美恵
- 5 市側出席者 田中市長、上口市長政策部長、川森市民協働部長、柴市長政策部担当部長、
荒木市民協働部担当部長(井口行政センター長)、竹中地方創生推進課長、
石崎行革・施設管理課長、市川南砺で暮らしません課長、亀田地方創生推進係長、
片田財政係長、勇崎協働のまちづくり係長、西井秘書係長、
藤田井口行政センター次長、影近協働のまちづくり係主事
- 6 傍聴者 0名
- 7 協議議題 (1) 第2次南砺市総合計画(素案)について
(2) 庁舎統合後の行政センター業務の移行について
(3) 市が事務局を担っている各種団体の事務移管について
(4) 各種補助金等の見直しについて

8 会議経過

○開会

荒木井口行政センター長から開会の宣言及び欠席委員の報告を行う。

○会長挨拶

小林加津實会長の挨拶

○市長挨拶

田中市長の挨拶

○協議議題

小林会長が議長となり順次議事を進める。

(1) 第2次南砺市総合計画(素案)について

(竹中地方創生推進課長から資料により説明)

(議長) 説明について、委員からの発言を求める。

(A 委員) 私は第2次南砺市総合計画審議委員として参加していた。大変丁寧に審議されて3回の予定が4回になり、多くの意見が出され、それを汲み取って頂いて、大変良いものが出来たと思って感謝している。また、井口では義務教育学校に向けて準備が進められているが、これも3年間かけて本当に丁寧に良いものにするよう取り組んで頂いていることに感謝している。義務教育学校が良いものになるよう地域の皆さんへの理解も進めていきたいと思っている。そんな時に、昨年11月南砺市公共施設再編計画改定方針検討委員会から小学校4校、中学校2校という案の新聞報道があった。その翌日に井口地域小中一貫校設置協議会があり、教育長から「南砺市は地域に学校は残していく、義務教育学校にしていく」というお話があり安心していましたが、その後「小学校4校、中学校2校」の話が聞こえてき

たり、なんで「井口に16億円もかけるんだ。」という声が聞こえてきて心配している。南砺市公共施設再編計画改定方針検討委員会とはどういったものなのか。今回の一流の田舎を目指す新総合計画に教育環境の充実も謳ってあるのに、なぜ4校2校のような数字が出てくるのかわからないので、市の方針がどうなっているのか聞きたい。

(石崎課長) 南砺市公共施設再編計画改定方針検討委員会は民間の方の学識経験者2名、公募委員6名の8名で構成されている。南砺市の公共施設を30年後にどのような施設をいくつ残していくべきかを議論していただいた。そこには、財政のシミュレーションや、人口推移、建物の耐用年数、利用人数を推計して必要な施設の数を検討されたものである。その中で学校の数が小学校4、中学校2と出されたものであり、そこには市の政策は考慮されていない。市は検討委員会で示されたものを考慮したうえで、市の方針や地域事情等を踏まえて原案を作成中である。内容が固まれば市民の方にお知らせしていきたい。

(田中市長) 検討委員会の皆さんには、30年後に何を残すべきかを検討いただいた。その中には民間でできるものもあるが、教育は市や国でしっかり行っていくべきものである。市は検討委員会の意見を無視する訳ではないが、市の政策的な意見をプラスして施設によって減らすもの、残していく施設を考えていかなければならない。教育環境では通学距離、地域の実情、本来南砺市の教育はどうあるべきかを考えて総合計画に盛り込んでいかなければならない。他の地域の小中学校は長寿命化対策予算を使ってきたが、井口の学校はそれらを待って頂いていた。今回は満を持して行うものであり、井口の人たちには耳障りの悪い声も聞かれるかもしれないが、議会の皆さんとも議論を進めながらしっかり取り組んで説明して行く。新聞報道の翌日に松本教育長が話をされた方向で進めている。

(B 委員) 新聞報道であった試算を見ると、人づくりをどうするか、教育をどうするかが根本的に抜けている。財政面からばかりが取り上げ過ぎである。いろんな人から、国の試算の1学級35人とか1学年2学級以上をベースに考えられていると聞いたが、私は画一的な方向ではなく将来的には多様な特色のある学校があってよいと思う。校区の問題があるかもしれないが規模も含めていろんな学校がある方がよい。

(田中市長) 検討委員会での数字はそういう風にしかできないので、そこにこれから市の政策や考え方を盛り込んでいくものである。

(B 委員) 立派な総合計画があっても、それを誰が行っていくのか、人材、人づくりが大事だと思う。勉強会で話も聞くが、行政や地域づくり協議会の組織も大事だが、インフォーマルな組織も無いと上手く回らないという話も先進地の方から聞く。両方が両輪となって回って始めて地域が活性化していくのではないか。若い人が地域の中に入って行くのは仕事のこともあり難しいことあると思うが、市職員の方も積極的に取り組んでいてもらいたい。

(田中市長) インフォーマルな街づくりの担い手をどう作るかということかと思うが、現在、福野と井波で頼もしいインフォーマルな組織ができた。井波では庁舎の跡地をどう使うとか、街中にゲストハウスが出来てきたが何が足りないのか自分たちで取り組み、パン屋さんを誘致したりして取り組みが広がってきている。福野は空き家をどう使うか、新たな施設を

自分たちの資本で作っていきこうといった、街の中の課題を解決していきこうとする取り組みが行われている。そういった活動が人を育てることになるだろうし、他の地域でもそのような連携が生まれてくればいいと思う。行政が作った組織ではなく、自発的に出来た組織に行政がどう参画していけばいいのかを考えている。

(C 委員) 総合計画資料の文面にカタカナ文字が多くて自分には分かりにくい。一般市民の方にも分かりにくいのではないかと、市民の方に理解してもらえないのでは意味が無いのではないかと。横文字が多いとかつこよく思えるかもしれないが、後から考え直すと何を言わんとしているのだろうと言うことがある。もう少し我々の年代にも理解しやすい言葉にしてもらえないか。

(竹中課長) 資料作りにおいてはなるべく市民の皆様には耳慣れない言葉は使わないよう取組んできたつもりだが、どうしても使わざるをえない言葉もあるのが現状である。ご指摘のことは分かるが、3月末までには注釈をつけるとかして市民の皆様にご覧いただけるような資料作り努めていきますのでご理解を賜りたい。

(D 委員) 結論から言うと財政が厳しい、それは人口減少が根本かと思う。人口が多ければ経済活動が大きくなり、お金が回る。お金が回れば人も集まるということになる。南砺市では人口減少対策をどのように考えているか。

(田中市長) 人口減少が大変大きな問題であることは認識している。これまでの南砺市の取り組みで移住者は増えている。しかしながら、20～30代の女性の転出が大きな割合である。お父さんお母さん世代の人口減少は出生数の増えない原因にもなっている。子育て世代の移住定住の環境づくり、働き口確保の企業誘致を行ってはいるが企業から人はいますかと言われると厳しい現実がある。全国的にも一極集中は変わらず、地方はどこも同じ悩みを抱えている。その中で10～20年先を見据えて南砺市は災害対策、安全安心のまちづくりや、教育とか文化の魅力を発信していき、一流の田舎を強調し続けたいと思っている。それに賛同していただいた人達が多く移住してもらえたらと考えている。

(D 委員) 井口の小中一貫校を始めとして教育に力を入れる、それらが今後どのように成果が出て、9～10年後に卒業した子供たちがどのような発言をしたり、行動、活躍をしていくかが大事だと思う。

(田中市長) 先ずは今の子育て中のお父さん、お母さんたちが南砺市は良いわと思ってもらえるのがスタートである。現状はここに残るといろいろ大変な問題を抱えなくてはならないという風に思っているようなことを聞く。そこから変えていけるようにしていかなければならないと思っている。そこに小中一貫校の成果が良いスパイラルになって行けばよいと思う。

(議長) 他にご意見がなければ、次の議題に進めていきたい。

(2) 庁舎統合後の行政センター業務の移行について
(荒木市民協働部担当部長から資料により説明)

(議長) 説明について、委員からの発言を求める。

(E 委員) 井口行政センター会議室は7月以降使用可能とのことだが、時間外は利用可能か。

(荒木担当部長) 井口行政センターの会議室についてはこれまで同様に基本的には時間外も利用可能と考えている。ただし、土曜、日曜、祝日については出来る限り、いのくち椿館や井口社会福祉センターの利用をお願いしたい。

(E 委員) 体育館等の鍵の管理はこれまでは井口行政センターで行っていたが、7月以降どのようなになるか。

(荒木担当部長) 井口行政センターの宿日直の方に体育館の夜間開放や屋内グラウンドの鍵については行ってもらっている。7月以降は生涯学習スポーツ課からローソン井口池尻店に依頼し、鍵の管理をお願いすることで調整を行っている。手続きは少し変わるかもしれないがこれまで同様に利用可能と考えている。

(F 委員) 以前に体育館等の施設利用料が値上げになる話があったと思うが、先送りになったと聞いている。将来的にどうなるのか、今現在どのような状況か。

(荒木担当部長) 将来についてはこれから検討される。例えば井口行政センターの会議室の使用料については当面これまで同様である。

(C 委員) 当面というのは7月までか。

(荒木担当部長) 来年度中はこれまで同様である。

(B 委員) 井口には公民館のような建物がないので、会合などは行政センターや社会福祉センターを利用させていただいている。市でいろいろなガイドラインが策定されているが、担当の方は何でもかんでも一律にされようとしている状況があり、使用料のことで地域状況に応じて対応してもらえないかと思う。ガイドラインは必要とは思いますが、新たに公民館を建ててもらうのが難しければ何がしかの配慮をいただきたい。

(G 委員) 井口社会福祉センターについて、これまで会合や飲食を伴う会で利用しているが、土曜日曜に使用できなくなるというようなことを聞いている。他に施設がないのでそうすると大変困るのでどうなるのか。

(A 委員) 放課後児童クラブで井口社会福祉センターを利用しているが、利用時間が以前は5時30分くらいまで使えたのが、今は5時過ぎには隣のふれあい会館1階ホールに移動しなければならなくなり、子供たちは寒い思いをしている。義務教育学校が整備されれば心配が無くなるが、今は学童保育がないのでもう少し考慮してほしい。

(石崎課長) 利用料金についてですが、公民館のある地域づくり協議会には30数万円の施設維持

管理料をお支払いしてそれ以上かかるものはその地区で負担していただいている。井口のように公民館のない地区は福野や井波地域にもあり、そういったところには統一した利用減免制度を考えている。ただ、今のところ無償というのは難しいと思われる。

放課後児童クラブについては教育委員会と調整を行って利用料を支払うことでよいのではないかと思う。

(G 委員) 結局、井口社会福祉センターについて、土曜、日曜や夜間は使用できるのか。

(荒木担当部長) 井口社会福祉センターは利用されている団体も多くある。ただ、以前から土日祝日は使用を控えてほしいということは聞いているが、過去からの経緯もあり特別に利用したい場合にはお願いして利用させていただいている状況である。今後は南砺市社会福祉協議会と地域づくり協議会、行政センターと一緒に協賛していき必要があると考えている。

(H 委員) 自分は社会福祉協議会に勤務しているので、少し説明をしたい。井口社会福祉センターは井口村時代に建設され、センター管理要項には土日・祝日、お盆、年末年始は休館と定められていた。しかし、井口には公民館がない、他に施設もないということで利用団体の申請によって村時代は開館していた。合併後から現在も通常休館日でも年間数十日は開館している。管理のためには人件費がかかり、福祉課から管理料をいただき、利用者からは利用料をもらっているが、見合った額になっていないのが現状である。

放課後児童クラブに関しては、始まりは井口に児童館がないということで保護者からの相談により補助金の受け皿の関係で地区社協が引き受けることになった。今年度から地域づくり協議会に引き継いで運営していただき、使用している部屋の利用料は協議の上、減免申請されているのももらっていない。

(E 委員) 昨年11月から17時15分以降の社会福祉センターの管理体制が変わったことにより利用時間が短くなった。子供たちのためにも以前のような利用時間になるようお願いしたい。

(田中市長) 放課後児童クラブの活動場所について検討が必要であるが、何年後かに学校施設が整備されるまでの問題ということかと思う。子供の担当部署とも協議をし、また社会福祉センターの土日利用についても関係機関と協議していきたい。

(議長) 他にご意見がなければ、次の議題に進めていきたい。

(3) 市が事務局を担っている各種団体の事務移管について
(石崎行革・施設管理課長から資料により説明)

(議長) 説明について、委員からの発言を求める。

(B 委員) 地域振興室の職員の方がいのくち椿まつりについて事務をされながら、少しずつ事務移管していくという理解でよいか。

(石崎課長) はい。

(B 委員) いのくち椿まつりは半年以上前から企画等について事務を進めている。毎日ではないにしろ時期を見ながら地域振興室の方には福光から来て協力をいただき進めていきたいのでよろしくをお願いします。

(E 委員) 8つの市民センターに43名ということだが、井口は何名になるのか。またそのメンバーには今までのような応援は求められないのか。

(荒木担当部長) 井口市民センターは4名の予定である。基本的にはイベント等については新しい地域振興室と地域で行っていくことになると思うが、事情によっては市民センターとも連携を取りながら行っていくことになると思う。

(B 委員) 市民センターはオールマイティーな業務になると思うので、積極的に動いていただける人材をお願いしたい。

(上口部長) 合併から15年で初めて行政センターの仕組みを変えていくことになる。始めは全てが上手くいかないかもしれないが、市民センターに統括という管理者を置いて地域と地域振興室の間に入って活動してもらうのが1年目かと思うので、また何かあればいろいろとご意見もいただきたい。

(議長) 他にご意見がなければ、次の議題に進めていきたい。

(4) 各種補助金等の見直しについて
(片田財政係長から資料により説明)

(議長) 説明について、委員からの発言を求める。

(B 委員) 補助金のガイドラインについてですが、井口はこれまでも椿まつりを重要視してきた。イベント補助金が不足した場合に交付金のお金を回せるように出来ないか。ある程度の範囲において、地域の裁量でお金の使途を自由にさせてもらえないか。

(片田係長) 委員の言われる補助金というのは、地域づくり協議会への交付金の使い勝手のことかと思う。イベント補助金については補助率の関係もあり、いろいろ検討されていることに感謝している。交付金については確かに色がついている訳ではないので、地域づくり協議会様の裁量にお任せしているところではあるが、大きな金額をイベントに使われるということではないと思うが、どれだけでも好きなように出来るという訳にはいかないので補助金支出担当課と協議していきたいと思っている。他の団体への補助金との関連もあるので観光課担当とも協議し、整理してからお伝えしたいと思う。

(D 委員) 自分の地区内に家の屋根裏にムササビかハクビシンか何かの小動物が住みついて困っている話がある。追い出すのに何かいい方法がないか。

(片田係長) ハクビシン等の有害鳥獣駆除については農林課の担当であり、罾を仕掛けたり、猟友会に依頼して駆除している。区長さんから申請していただければ対応可能と思われる。行政センター経由で申請されてもよい。

(D 委員) それについては農林課に聞いてみるよう伝える。別件ですが、電気柵でなくて恒久柵の補助金が0になっているが補助制度が無くなったのか。

(片田係長) イノシシ対策のことかと思うが、国の補助制度のメニューが残っている。農林課によると豚コレラの関係で電気柵だけでは対応できないので恒久柵で対処していかないといけないと考えているようである。これも補助制度はあるので農林課にお問合せを申請いただきたい。

(E 委員) 井口保育園について幼児が現在35人、他地域から5人の状況であり、建物は30年弱経過している。井口は小中一貫校にはなっていくが、人口も減り少子化傾向において保育園も古くなっていくと建替えとかしてもらえるのか、将来的に井口保育園の存続はどうなっていくか心配である。

(田中市長) 保育とか子育てについては距離感のこともあるので地域に残す方向で考えている。井口の場合は保育園も含めたモデルの小中一貫校を考えている。建物に関してはメンテナンスをして活用して行きたい。また、他の施設に比べると教育関係は優先順位を上げたいと思っている。

(議長) 他に意見がなければ、予定していた時間も経過していますので、以上で本日の第2回井口地域審議会は閉会いたします。

○閉会の挨拶

長田副会長より閉会の挨拶

○閉会

荒木井口行政センター長から閉会の宣言